

令和4年度
学校だより

令和4年
5月2日

しおかぜ

佐渡市立
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 2

「ことばまみれ」の学校

校長 白澤 道夫

先日は、お忙しい中、学習参観及び懇談会でご来校いただきありがとうございました。
また、同日に開催されたPTA総会では、学校経営方針について説明させていただきました。
今年度も様々な配慮をしながら、魅力ある教育活動を職員一丸となって展開していきます。
昨年度に引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、ここ数年で、学びの環境は大きく変化しました。「GIGAスクール構想」「一人一台端末」をはじめとするICT機器の教育現場への導入・活用の価値は大きいと思います。
しかし一方で限界も見えてきたと考えています。

それは「社会性」への懸念です。

ご存知のとおり、人間は社会的な関係の中で育ちます。その中核ともいえるコミュニケーションについて、ある研究者によると、「(実際のコミュニケーションは)表情や身振り・手振り、仕草等の非言語の比率が高い」のだそうです。

今後、ますます利用場面が増えてくるオンラインによる学びは、直接会うことで得られた非言語を見えにくくさせていくのかもしれませんが。

私自身、このような考えをする中で、学校の価値をあらためて見直すことができました。

やはり、人間は、直接的な関係がベースとなって成長するものだと考えます。そして、その重要な役割を「これまでも」「これからも」学校は担っていくと考えます。

上記の考えをもとに、今年度、当校の学びを昨年度よりも充実していく上で、先述した「非言語」も大切ですが、一方で伝えたい内容に直接関わる「言語」も同じように大切にしたい学校にしていきたいと考えました。

現在の学びは「(情報をもとに)考え、判断したことを、表現する」力を重要視しています。その根底には「言語」は欠かせません。人間は言葉で考え、判断し、表現します。

言語の充実は、学力向上はもちろん、よりよい人間関係にもつながると考えます。

そこで、今年度、職員に「^{ことばりよく}言葉力(言語そのものや非言語について理解や活用する力)」を向上させるために、授業はもちろん、教室等の環境も含めて言語環境を充実させるよう指示しています。このことを端的に示した合言葉が「ことばまみれ」です。

「ことばまみれ」を目指す当校では、単に、聞く・読むだけに終始せず、自分で考え・判断したことを話す・書く活動を積極的に繰り返しながら「言葉力」を高めていきます。そして「言葉力」が、当中学校区学校運営協議会が目指す子ども像「思いやりと信念をもって根張れる子」の具現につながるよう取組を進めていきます。

ぜひ、ご家庭でも「言語」「非言語」を上手に使いながら、子どもたちとコミュニケーションを図ることをとおして「言葉力」の向上にご理解とご協力をお願いいたします。